

西部地協で初の「政策シンポジウム」を開催

「鳥取県からの挑戦」平井知事が基調講演 民主党県議はパネルで持論を展開



基調講演
平井鳥取県知事



パネルディスカッション
熱く意見を語る連合鳥取推薦県議会議員

西部地協(中島ちから議長/約九千五百名)は7月1日、米子コンベンションセンターにおいて、政治活動の深度化と政策制度要求の前進をめざす観点から、初の試みとなる「政策シンポジウム」を開催しました。同シンポは第1部/基調講演に平井知事を、第2部/パネルディスカッションに県連合・地協推薦民主党県議会議員(4氏)を招き、「鳥取県の課題と構想(光と影)」についての識見・経験に基づく提言を受けました。会場は満席の300名が参加し、「地協まとめ」では毎年7月を「政策を考える月間」として、さまざま視点、角度から同シンポジウムを開催することを意思統一しました。

梅雨空の7月1日18時15分。会場本ベル鳴動に合わせて開会が告げられました。政策シンポ冒頭、中島議長は「働く事を軸とする安心社会の実現には政策制度要求の実現が重要」としたうえで、「統一地方選ではその一翼を担ったと総括したが、従来の政治活動を一步深めるためには課題に応じた識者の意見を踏まえ、政策議論を常態化する地協運動が不可欠と判断した」として、同シンポの開催目的に対する見解を表明し、会場に理解を求めました。

第1部の基調講演で平井知事は、「みんなのでやらいや未来づくり鳥取県からの挑戦」として、知事自らパワーポイントを扱い、東日本大震災における県の復旧活動等を紹介しました。そのうえで、米子市崎津を候補地とする「メガソーラー」挑戦への必要性をはじめ、米子ソウル便、DBSクルーズフェリー運航と併せた観光拠点の整備、また若者が県外に流出しない雇用対策などについて県の考え方を紹介し、「今こそ、みんなが知恵を出し合い、将来に希望が持てる県、地域を創る時。鳥取県からの挑戦メッセージを全国に発信しよう」と県政における役割、連合鳥取への協力体制、地域への浸透運動などを求めました。講演を踏まえて

会場からは、私鉄総連、県教組から意見が寄せられるなど、参加者は新たな感覚と視点で同シンポを捉えることができたと言います。

第2部では、県連合・地協推薦の福岡裕隆(西伯郡選挙区)、浜田妙子、森雅幹(同米子市)、森岡俊夫(同境港市)の民主党県議をパネリストに招き、平井知事の基調講演を踏まえてパネルディスカッションを開催しました。

コーディネーターは地協事務局が進め、①県下で危惧すべき事象、②将来につながる分野、③PPPへの見解、④子育てでの経済格差、社会的格差、⑤少子高齢・過疎化に伴う医療・福祉、公共交通問題等について各議員から提言や見解を求め、更に深く掘り起こした議論を展開しました。

最後に地協労働政策局から、同シンポの共有化としてまとめ、全体で確認しました。また毎年7月を「政策を考える月間」として提起、視点・論点を変えて政策シンポジウムを開催することを意思統一し、終了しました。

希望と安心の社会づくり
ニッポンの原動力・連合
すべての働く者のために頑張る!

2011春季生活闘争特集

連合鳥取2011 春季生活闘争 要求・回答・妥結状況 (6/30 現在)

- 調査対象 137 組合 ○登録組合 125 組合
- 賃 金** ○要求提出組合 87 組合⇒平均賃上げ方式 85 組合、個別賃金方式 1 組合、人勸準拠 1 組合
- 回答妥結組合 77 組合⇒平均賃上げ方式 76 組合、個別賃金方式 1 組合
- 平均賃上げ方式 (ペアのみ登録組合)

平均賃上げ方式	要 求		回 答 ・ 妥 結	
	組合数	金額 (円)	組合数	金額 (円)
組合平均	3	833	3	0

○平均賃上げ方式 (体系維持相当分+ペア登録組合)

平均賃上げ方式 (組合平均)		組合数	金額 (円)	率 (%)			
				集計組合数	集計組合数		
要 求	従業員	計	82	5,561	65	2.50	49
	300人以上		34	6,238	29	2.57	23
	299~100人		22	5,074	19	2.34	13
	99人以下		26	4,948	17	2.55	13
回 答 ・ 妥 結	従業員	計	73	3,354	61	1.55	44
	300人以上		30	4,334	28	1.84	20
	299~100人		20	3,120	18	1.61	12
	99人以下		23	1,807	15	1.01	12

- 一時金** ○要求提出組合 年間 41 組合 夏季 20 組合
- 回答妥結組合 年間 37 組合 夏季 16 組合

一 時 金 (組合平均)		要 求				回 答 ・ 妥 結				
		金額 (円)	集計組合数	月数	集計組合数	金額 (円)	集計組合数	月数	集計組合数	
年 間	従業員	計	1,078,721	18	4.57	36	1,022,078	21	4.16	24
	300人以上		1,409,520	7	4.63	20	1,214,165	13	4.36	10
	299~100人		810,719	6	4.58	9	734,600	4	4.38	8
	99人以下		937,204	5	4.41	7	685,270	4	3.54	6
夏 季	従業員	計	441,883	13	2.03	15	325,891	12	1.52	11
	300人以上		510,371	4	1.50	1	373,594	3	1.20	1
	299~100人		474,667	7	2.01	9	391,477	6	1.61	8
	99人以下		190,165	2	2.16	5	147,015	3	1.35	2

○業績連動式⇒5組合 (年間分:3組合、半期分:1組合)

- 地域ミニマム賃金** ○要求提出 2 組合 水準目標をクリアしていないが要求せず 5 組合
- 回答・妥結 水準目標をクリアした 1 組合 現状維持 1 組合

- 連合鳥取重点取り組み課題** ○要求書提出 提出 107 組合 提出せず労使協議 2 組合 何もせず 15 組合 人勸準拠 1 組合

取り組み項目	取り組みレベル	組合数	回 答 ・ 妥 結	組合数
非正規労働者への取り組み	○処遇改善	1 8 組合	○処遇改善	1 1 組合
	○その他の取り組み	1 3 組合	○その他の改善	9 組合
企業内最低賃金	○取り組み	2 1 組合	○水準引上げ	1 0 組合
水準引き上げ	*対象者パート等含む全従業員	(7)	パート等含む全従業員	(6)
	組合員のみ	(9)	組合員のみ	(4)
協定化	○取り組み	1 5 組合	○協定化	5 組合
	*対象者パート等含む全従業員	(2)	パート等含む全従業員	(2)
	組合員のみ	(1 0)	組合員のみ	(4)

取り組み項目	取り組みレベル	組合数	回 答 ・ 妥 結	組合数
総実労働時間短縮	○取り組み	1 6 組合		
時間外労働削減	○取り組み	1 2 組合		
年休の取得促進	○取り組み	1 2 組合		
年休付与日数増	○取り組み	4 組合	○付与日数増	2 組合
所定労働時間短縮	○取り組み	1 2 組合	○所定労働時間短縮	2 組合
時間外割増率引上	○取り組み	1 9 組合	○割増率引上げ	7 組合
65歳まで雇用確保	○取り組み	9 組合	○制度導入	1 組合
制度導入	○取り組み	9 組合	○春闘とは別途、継続協議	1 組合
組合員化	○取り組み	2 組合		

特集 東日本大震災 「連合東北地方太平洋沖地震カンパ」が義援金として被災地に届けられました

震災直後から、組合員のみなさまはもとより、日本国内外からお寄せいただいた「連合東北地方太平洋沖地震災害救援カンパ」は730,106,256円(2011.6.14現在)となりました。(うち連合鳥取の取り組みは2,438,215円寄付)

「連合第22回中央執行委員会(2011.6.16開催)」において、被災地への義援金として下記の配分とすることが確認され、6月20日に古賀連合会長が岩手県知事に、6月23日には南雲事務局長が福島県知事に義援金各2億円を手渡しました。他の3県にも近く交付される予定です。

みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。

《基本的な考え方》

- ①個人、団体、海外の組織・個人、地方連合会、連合本部街頭募金等は、当該地方連合会を通じて、全額被災者の生活支援を目的とした被災自治体への義援金とする。
- ②構成組織分は義援金及び連合の被災地救援ボランティア活動の諸経費、被災地方連合会への助成金の一部に充てる。

《配分内訳》

内 容	配分先	金額 (円)
義 援 金	岩手県、宮城県、福島県	各 2 億円 600,000,000
義 援 金	茨城県、千葉県	各 2,000 万円 40,000,000
連合災害救援活動費	ボランティア送迎バス代	35,000,000
総 額		675,000,000

*上記配分を超えるカンパ金については再度検討し、提案する。



連増岩手知事(右)に、義援金の目録を渡す古賀会長(左) 左手前は、砂金連合岩手会長

男女平等参画学習会を開催

6月18日(土)、倉吉市・伯耆しあわせの郷にて、70名の組合員(約40%が女性)が参加のもと「第8回男女平等参画学習会」を開催しました。

はじめに、主催者を代表して五十嵐会長があいさつにたち、「2009年度、日本の雇用労働者のうち女性は2,332万人と雇用労働者の42.6%を占めている。女性の労働力なくして、この日本経済の成長と発展は欠かせない。しかしながら、その雇用形態は、非正規雇用者が1985年は32.1%に対して2009年には53.3%になり、その中でも、パート・アルバイトに関しては417万人から903万人と倍増している。このことをベースに、『男女の賃金格差をはじめ、昇進・昇格における格差、与えられる仕事の格差』など、まだまだ働く女性にとって格差の環境が解決されていないのが実態である。働き方の見直し、男性も女性も社会で活動できる機会を大いに作っていかねばならない。」と訴えました。

続いて、この4月の鳥取県議会議員選挙で見事3期目の当選を果たされた、浜田妙子さん(連合鳥取推薦議員)をお招きし、「男女平等参画に向けて私の思うこと」と題して講演をいただきました。講演では、「現状の日本の社会は物事を決めるのに男性社会である。女性の視点を取り入れた社会にする必要がある。」と県議会議員として男女平等参画社会の実現に取り組んでいる事例をお話いただきました。

政府は、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、女性の占める割合を少なくとも30%程度にする」という目標達成に向け、2010年12月に「第3次男女共同参画基本計画」を閣議決定しました。この目標達成は、労働組合を含む民間部門にも求められています。

連合鳥取も着実に取り組みを進めてまいりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。



講師/浜田妙子さん



青年委員会列島クリーンキャンペーン

6月19日(日)、連合鳥取青年委員会は24名参加のもと「列島クリーンキャンペーン」を開催しました。

今回は「大山・一木一石運動」への参画を通じて、産別の交流はもちろん、環境活動への積極的な参加を目的として開催しました。

当日は全員で石を持ってスタートし、大山の山頂を目指しました。全員で山頂に石を運んだ後、大山から見下ろせる壮大な景色を楽しみながら、無事下山しました。
(寄稿 青年委員会 幹事 中村伸一さん)



ボランティアガイドによる説明

一木一石運動とは?

昭和50年代に大山山頂の緑が減少したため、山頂のいたるところに侵食溝ができてしまいました。その溝を埋めて緑を復活させるために、登山者に一つずつ石を山頂に運んでもらう運動です。



一木一石運動に協力



全員元気に山頂に到着!

参加者募集!

第36回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会

■8月3日(水)~4日(木) 《全体会:8/3》基調提案
 ■倉吉未来中心 特別報告/「子どもたちとともに悩み、学び、笑顔を求めて」
 他(中部8会場) 講 演/「部落問題の(いま)~近現代の歴史を振り返りながら~」
 公 演/「みんなちがって みんないい」

《分科会:8/4》

平和行動スタート

今年の平和運動強化期間のスタートとなる「2011平和行動 in 沖縄」が6月23日(木)～24日(金)に開催され、連合構成組織と全国の地方連合会から約1600人が参加しました。連合鳥取からは4名が参加し、恒久平和へのアピールをしました。

8月の広島(8/4～6)・長崎(8/7～9)、9月の根室(9/10～11)についても参加していき、ともに平和について考えていきたいと思えます。

また、連合鳥取ピースウォークも開催しますので、みなさまの積極的なご参加をお願いします。

《下記活動紹介をご参照ください。》



式典の様子



普天間吉が一望できる高台の公園



鳥取からの参加者

連合鳥取活動紹介

労働政策セミナー 政策討論集会

- 7月9日(土)13時00分～
- 中部教育会館

《時局講演会》
民主党鳥取県連代表
衆議院議員 湯原俊二氏

《2012年度連合鳥取政策・
制度要求(案)説明、討論》

女性委員会 産別交流会

- 7月16日(土)10時00分～
- ハワイアロハホール

《調理実習》
米粉を使った料理づくり
(ベグルサンド・シフォンケーキ)

《意見交換会》



平和行動・ピースウォーク(中央) 《西部地協・中部地協》

- 7月31日(日)10時00分～12時00分
- 米子市・ふれあいの里

《平和を希求するミニコンサート》
ヴァイオリン・ヴィオラ奏者
眞家 利恵 さん

《平和学習会/
記念講演&意見交換会》
広島県原水爆被害者団体協議会
理事長 坪井 直 氏
《ビデオ上映》
《アピール採択》 ※デモ行進なし

平和行動・ピースウォーク 《東部地協》

- 8月6日(土)9時45分～(予定)
- ふれあい会館

《平和ライブ》
環境と平和を守り次世代につなぐ歌姫
ならい ちどり
那良伊 千鳥さん

●HP アドレス
<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~titorin/>



産別・単組 活動紹介

◆国公総連◆

国公総連は、各府省に働く国家公務員及び独立行政法人の組合員で組織された労働組合で構成される産別です。

鳥取県内での構成単組は、全農林労働組合(農林水産省出先機関及び独立行政法人職員で組織)と全財務労働組合(財務省出先機関である財務事務所職員で組織)です。

全農林の中には、境港を定繋港とし、日本海において外国船の違法操業等の取り締まり業務を遂行している水産庁漁業取締船「白嶺丸」で働く組合員(写真)がいます。彼らは震災発生後、6月12日まで、東日本大震災で被災された方々への食料物資などの運搬や、港湾の被害状況調査を行ってきました。



このたび、政府からの国家公務員給与減額提案に対して、国公総連は国公連合・連合公務労協に結集して、現行制度の枠を超えた交渉を行い、労働基本権付与の法案との同時成立や、給与の減額部分を大震災の復興財源とすることなどを前提に労使合意を行いました。

今後も組合員の労働条件改善はもとより、国民の生活改善を目指して労働運動を進めていきます。

つづいて

「反省はしても 後悔するな」
▼1998年1月に他界された、当時の連合鳥取会長であった故・広藤強さんが病床で記したものである。表題には「人生最後の記録(メモ)」とある▼広藤さんは連合鳥取発足当初から事務局長として、連合鳥取運動の草創期からの礎創りに尽力された方で、その間は大変な苦勞があったことと思う▼私は広藤さんのお蔭で現在の自分がある、と思っている。広藤さんとの出会いがあったから組合役員を受け、その後専従役員となった。そして多くの「経産をいただく事となった。もちろん悩むこともたくさんあったし、苦しむこともたくさんあった。そしてこの度、一つの区切りを迎えることになった▼「どの道を選ぶか。よりも選んだ道をどう生きるか。」という言葉を聞いたことがある。思い悩んで選んだ道でも、その後の過ごし方でよくも悪くもなる。要は、成功や幸せの道は、「入り口ではなく、道中にある」という事であろう。区切りや節目を迎え、次に進むときに頭に置いておきたい言葉だ▼広藤さんの残してくれた言葉とともに、今後訪れるであろう幾度かの節目の時の教訓を得た▼あれ以来、13年以上財布の中に入れてある広藤さんの直筆(コピー)メモには、「残された時間をさわやかに生きるため。なんとも書かれていない。」

(志有道)

